



JASDAQ

平成22年7月14日

各 位

上場会社名 株式会社アウトソーシング  
代表者 代表取締役社長 丸岡 陽太  
(コード番号 2427)  
問合せ先責任者 常務取締役 鈴木一彦  
(TEL 054-281-4888)

## 平成22年12月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想 並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成22年2月10日に公表いたしました平成22年12月期第2四半期累計期間(平成22年1月1日～平成22年6月30日)の業績予想及び平成22年12月期通期(平成22年1月1日～平成22年12月31日)の業績予想並びに期末配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ● 業績予想の修正について

平成22年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 12,300	百万円 520	百万円 570	百万円 340	円 銭 2,283.44
今回発表予想(B)	12,800	230	370	160	1,097.93
増減額(B-A)	500	△290	△200	△180	
増減率(%)	4.1	△55.8	△35.1	△52.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年12月期第2四半期)	7,733	△374	△306	△401	△2,940.53

平成22年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 26,000	百万円 1,600	百万円 1,700	百万円 1,000	円 銭 6,716.01
今回発表予想(B)	28,500	1,600	1,800	1,050	7,205.15
増減額(B-A)	2,500	0	100	50	
増減率(%)	9.6	—	5.9	5.0	
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	17,964	△150	22	△215	△1,511.00

平成22年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 6,900	百万円 160	百万円 200	百万円 120	円 銭 805.92
今回発表予想(B)	7,750	280	350	200	1,372.41
増減額(B-A)	850	120	150	80	
増減率(%)	12.3	75.0	75.0	66.7	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年12月期第2四半期)	6,611	△226	△174	△97	△713.62

平成22年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 14,600	百万円 500	百万円 580	百万円 350	円 銭 2,350.60
今回発表予想(B)	16,400	800	900	550	3,774.12
増減額(B-A)	1,800	300	320	200	
増減率(%)	12.3	60.0	55.2	57.1	
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	13,823	59	165	102	715.28

## 修正の理由

当第2四半期累計期間の業績予想は、平成21年12月期決算短信(平成22年2月10日発表)において発表しておりますが、その時点では、国内大手メーカーの生産は緩やかに回復しているものの、主要顧客の輸送機器メーカーの生産がやや弱含む可能性が高く、現場のスタッフ数は微増に留まるとの前提で試算しておりました。しかし実際には、当該顧客メーカーの生産は予想と異なって堅調に推移し、その他の顧客メーカーについても、当初予想を上回る増産となりました。

このような環境のもと、当社グループでは受注を大きく伸ばし、当第2四半期累計期間の連結及び個別売上高は予想を上回る見通しであります。

一方、この予想以上の受注増に対して、未曾有の大不況の影響による大きな合理化を終えた直後の立上げであったため、営業社員、現場管理社員といった内勤社員増員のための費用、外勤社員の増員に係る募集費や寮の手配等の一過性の先行投資費用も要しました。また、前期の戦略的M&Aによって増加したグループ会社の整備・再編に係る一過性のリストラクチャリング費用も拡大しました。その結果、当第2四半期累計期間における、連結営業利益は230百万円となる見通しです。

当第2四半期累計期間における連結経常利益につきましては、技術社員の待機による助成金、M&A(平成22年3月10日発表)に伴う負ののれん発生、グループ会社借入金の見直しによる支払利息の減少等により、新たに約90百万円の利益寄与が見込まれ、370百万円となる見通しです。

また、特別損益において、当社連結子会社であるわらべうた株式会社の株式譲渡(平成22年4月28日発表)による特別利益で30百万円、本社移転及び営業所の統廃合(平成22年5月11日発表)のための事務所移転費用引当金繰入額による特別損失で60百万円の計上を見込んでいることから、当第2四半期累計期間の連結純利益は160百万円となる見通しです。

また、当第2四半期累計期間における個別の各々利益につきましては、請負受注の拡大に伴い、増員関連の一過性費用の計上がありますが、グループ整備・再編による費用の影響を受けないため、当初の予想を上回る見通しであります。

平成22年12月期の連結業績予想につきましても、当初想定を上回るメーカーの増産を受けて、受注が引き続き拡大する見通しであり、連結及び個別売上高は平成22年2月10日付発表の当初予想を上回る見込みであります。

また、この売上増に対応した一過性の費用も増大する見通しでありますが、当第2四半期累計期間での予想以上の売上増による第3四半期以降における利益寄与、並びにグループ整備・再編による販管費の抑制効果により、当第2四半期累計期間における連結業績予想の減額分を第3四半期以降に吸収することが予想されます。このため、通期における連結の営業利益につきましては、平成22年2月10日付発表の予想を据え置きます。また、経常利益及び当期純利益につきましては、当第2四半期連結会計期間と同様の理由により、それぞれ当初予想を上回る見通しであります。

個別における通期の各々利益予想につきましても、予想以上の受注拡大の継続に伴って一過性の初期費用が増加する見込みでありますが、当第2四半期累計期間における当初予想を上回る売上増によって生ずる利益拡大により、平成22年2月10日付発表の予想を上回る見込みであります。

## ● 配当予想の修正について

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回予想 (平成22年2月10日発表)	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 672.00	円 銭 672.00
今回修正予想	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 721.00	円 銭 721.00
当期実績	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —		
前期(平成21年12月期)実績	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 644.00	円 銭 644.00

### 修正の理由

当社グループでは、株主への利益還元を経営上の重要課題と認識し、企業価値を向上させていくための戦略的投資に備えた内部留保に努めるとともに、安定配当にも努めております。

当業界は、平成20年の後半より拡大した世界同時不況や法制動向等の影響を受け過渡期を迎えておりますが、当社グループでは過渡期における業界の淘汰・再編においてこそ発生するメーカーニーズを的確に捉え対応できるサービスを揃えることで業績を確実に伸ばせるグループ体質を構築しております。

このような状況を踏まえ、配当政策につきましては、1株当たり予想配当金を平成20年度と同水準の644円とし、1株当たり当期純利益が6,440円を上回るようになった場合には、配当性向10%を目処として配当を行う方針をとっております。

当期配当予想につきましても、この方針に従い、平成22年2月10日付の当社「平成21年12月期 決算短信」にて1株当たり予想期末配当金を672円00銭(年間配当金672円00銭)と発表しておりますが、本日付の通期業績予想の修正により、1株当たり当期純利益が7,205円15銭になったことを受け、配当性向10%を目処として配当を行う方針により、1株当たり予想期末配当金を721円00銭(年間配当金721円00銭)と修正させていただきます。

(注)上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上